

気になる通知表の記述

1 どちらを先に書くか

文字で表現するのは難しいですね。通知表の所見を見て、保護者がマイナスに受け取らないだろうか、疑問に思わないだろうかと考える必要があり、作成には頭を悩ませることでしょう。



以前、Eテレで『～(A)～でしたが、…(B)…でした。』の表現は、Bの方が強くなる」という放送を見ました。「発表を頑張っていました、テストではミスもありました」という所見を書いたとすると、テストのミスの方が保護者に強く印象付けられるということになります。知っておくと、AとBを入れ替えたり、表現を変えたりできるかなと思い、紹介します。また、「テストでミスがありました」とマイナス面を記述するなら、それを受けてどう支援・対応したのか（していくのか）を書くと、保護者も安心されるのではないのでしょうか。（そもそも改善を図りたいという思いがあるからこそ書くのであって、そうでない場合は書く必要はないなあと感じる）

2 文中に名前はあまり出さない

「～をがんばっていた〇〇さん。その頑張りを2学期も…」といった記述を所見中に見かけます。書籍か何かの書き方例に載っていたのかもしれませんが、文中に〇〇さんと名前を書く必要はないと感じます。なぜなら、その通知表は、その児童のものですし、それは保護者もわかっていることだからです。公簿ではありませんが、それに準ずるものなので、パリッとした表現にしたいものです。

3 「手本」より「模範」

「友達のよいお手本になっていました。」もよくある記述例ですね。昨年度、「手本」を「模範」に書き換えてもらうことがありました。辞書等で調べると「手本は真似るべきものを指し、模範は理想とするものを指す」「手本はものを指し、模範は人や人の行為・状態を指す」とあります。所見中の文意から判断すると「模範」の方が適切な場合が多いのです。ちなみに「お手本」の「お」はいりません。

～次号へ続く～

職員作業

8月24日(水)午前中に職員作業を行います。予定している主な作業は次の通りです。

・粗大ゴミの搬出

先日、挙げてもらったリスト分を搬出します。業者が25日(木)に回収に来ます。

・机・椅子の入れ替え

新しい机・椅子を入れます。入れ替えた古いものや体育館2Fに置いているものを倉庫へ片付けます。

・少人数教室(図工室)の設営

2学期から少人数教室としても活用する図工室を片付けます。

～ティータイム～

「踊るあほうに 見るあほう・・・我が子は」

3年ぶりに開催されるはずだった山鹿灯籠まつり。中止の決定に心底がっかりした人は多い。主催者の思いを考えると胸が痛い。

「えー、ないとー?」「なんでー」「やだー」我が子もひとしきり言っていた。大人は状況を理解するのでいいが、子供はこちらが説明しても自分の感情が最優先なので、なだめるのが大変だ。「やだー」「やだー」しつこいのでだんだんイライラする私。「かもと招魂祭は延期らしいよ」「じゃあ、招魂祭はあるとよね。やったー」単純な奴め!!

先日、阿波踊りのニュースが流れていた。「踊るあほうに 見るあほう」祭りへの参加は様々だが、我が子は「(出店で買って) 食うあほう」といったところか。雰囲気味わうのが一番らしい。

来年こそは予定通りに祭りが行われることを切に願う。

